



講義概要  
指導計画  
*Curriculum & Syllabus*

2025

こども未来学科

保育士養成科

南海福祉看護専門学校

系列	教科名		単位数		担当者	1年		2年		ページ
			必須	選択		前期	後期	前期	後期	
教養科目	人権教育	講義	2		北村				(○)	
	情報技術	演習	2		藤本	○	○			1
	基礎教養講座	演習	2		北村・水野・岸本			○	○	2
	英語(選択)	演習		2						
	体育講義	講義	1		相奈良	▼	▼			
	体育実技	実技	1		相奈良	▲	▲			3
保育の本質・目的 に関する科目	保育原理	講義	2		木下	○				★
	教育原理	講義	2		木下		○			★
	子ども家庭福祉	講義	2		北村		○			★
	社会福祉	講義	2		水野	○				★
	子ども家庭支援論	講義	2		岸本		○			★
	社会的養護Ⅰ	講義	2		松田		○			★
	保育者論	講義	2		木下			○		★
	保育原理Ⅱ(選択)	講義		2						
保育の対象の理解 に関する科目	保育の心理学	講義	2		野出	○				11
	子ども家庭支援の心理学	講義	2		野出			○		12
	子どもの理解と援助	演習	1		野出		○			13
	子どもの保健	講義	2		飯盛	○				★
	子どもの食と栄養	演習	2		大杉			◎		15
	カウンセリング	演習	1		野出			○		16
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2		木下			○		★
	保育内容総論	演習	1		岸本			○		★
	健康	演習	1		岸本	○				★
	人間関係	演習	1		木下		○			★
	環境	演習	1		板谷		○			★
	言葉	演習	1		岸本	○				★
	表現Ⅰ	演習	1		森崎		○			23
	乳児保育Ⅰ	講義	2		上田	○				★
	乳児保育Ⅱ	演習	1		上田		○			25
	子どもの健康と安全	演習	1		飯盛		○			★
	障害児保育	演習	2		水野		○	○		27
	社会的養護Ⅱ	演習	1		松田		○			★
	子育て支援	演習	1		北村		○			29
	造形表現Ⅱ	演習	1		板谷			○		30
	表現Ⅱ	演習	2		森崎		○	○		31
	造形表現Ⅲ(選択)	演習		1						
	音楽表現Ⅰ	演習	2		清水・仁科・森崎	○	○			32
	造形表現Ⅰ	演習	1		板谷	○				★
	身体表現	演習	1		相奈良		○			34
	言語表現	演習	1		北村	○				★
音楽表現Ⅱ	演習	2		木本・仁科・森崎		○	○		36	
レクリエーション実技(選択)	演習		2							
レクリエーション概論(選択)	講義		2							
保育実習	保育所実習Ⅰ	実習	2				○			
	施設実習Ⅰ	実習	2				○	○		
	保育実習指導Ⅰ	演習	2		北村・木下・板谷・水野・岸本	○	○			37
	保育所実習Ⅱ	実習		2				○		
	施設実習Ⅱ	実習		2				○		
保育実習指導Ⅱ	演習	1		北村・木下・板谷		○			38	
総合演習	保育実践演習	演習	2		板谷		○	○	★	39
卒業研究	卒業研究	演習	1		北村			○		40
					森崎			○		41
					木下			○		42
					板谷			○		43
					水野			○		44
					岸本			○		45
	フィールドワーク	演習		1		○	○	○	○	46
ホームルーム					○	○	○	○		

※「保育所実習Ⅱ」または「施設実習Ⅱ」のいずれかを必修とする。

※○は1コマで15回授業

※▲▼は合わせて30回授業

※◎は1コマで30回授業

※★は「実務経験のある教員による授業科目」の指定科目

授業科目名	情報技術	講師名	藤本 茜
実施年次 ／時期	1年次 通年	時間数	60時間
<b>概要</b> Word・Excel機能の習得、園だよりやクラス表など仕事上必要な文書や集計表などへの展開・使用方法を学びます。			
<b>目標</b> 社会生活で不可欠なPC操作の基礎知識及び技術を身に付け、仕事に役立てる技法を習得する情報技術を身に付け、様々な文書、表作成、計算式に対応できる技量を身に付ける			
<b>内容</b> 1. ガイダンスとパソコンの基本操作 ネットワークやデータの取扱 2. タイピング、文字入力、文章入力 (Word) 3. タイピング、ビジネス文書の作成練習 (Word) 4. タイピング、段落書式など、文書校正 (Word) 5. タイピング、表作成 (Word) 6. タイピング、図形などオブジェクトの 取り扱い (Word) 7. タイピング、文書作成まとめ (Word) 8. タイピング、データ入力 (Excel) 9. タイピング、数式、オートSUM関係 (Excel) 10. タイピング、表の体裁、絶対参照 (Excel) 11. タイピング、その他の関数 (Excel) 12. タイピング、グラフ作成 (Excel) 13. タイピング、データベース (Excel) 14. 前期総復習 15. 前期まとめ		16. 前期復習、確認練習問題 17. 簡単なイラストの作成 18. おたよりなど案内文作成 1 (Word) 19. おたよりなど案内文作成 2 (Word) 20. おたよりなど案内文作成 3 (表入り Word) 21. おたよりなど案内文作成 (タブ設定 Word) 22. 複雑なレイアウトのおたよりや案内文作成 (Word) 23. クラス名簿の作成 1 (Excel) 24. クラス名簿の作成 2 グラフ展開 (Excel) 25. クリスマスカード・年賀状作成 (Word) 26. 児童台帳の作成、データベース (Excel) 27. 児童台帳編集、関数応用、グラフ展開 (Excel) 28. Word・Excel 総復習 29. 入力速度試験、試験範囲解説 30. まとめ	
<b>教科書</b> 保育者のためのパソコン講座 (萌文書林) 30時間でマスターWord&Excel 2016 (実教出版)			
<b>授業の形態</b> 演習 ／方法      ／コンピュータを使用し実技演習を行う。			
<b>評価方法</b> 試験 80%、成長度、提出物、授業態度など総合して 20%の評価とする。			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	基礎教養講座	講師名	北村博文・水野謙二・岸本千晶
実施年次 ／時期	2年次 通年	時間数	60時間
<b>概要</b>			
<p>社会生活を営む上で必要となる知識および福祉従事者として求められる資質は多様であり、一朝一夕で身につくものではありません。本授業では今後社会で求められる基礎的な教養を学び、一社会人としてふさわしい保育士の育成を図ります。</p>			
<b>目標</b>			
<p>1. 専門学生として求められる基礎的な文章構成・計算などができる 2. 社会人として求められる接遇・マナーや正しい言葉遣いができる</p>			
<b>内容</b>			
<p>1. オリエンテーション 実力確認テスト 2. 求人票の読み方 3. 電話のかけ方・一般教養（敬語） 4. 志望動機と自己PR・履歴書の書き方 5. 面接にのぞむ前に・自分の取扱説明書 6. 面接練習（グループ1） 7. 面接練習（グループ2） 8. 一般教養（ことわざ・四字熟語）・百ます計算 9. 一般教養（文章題：現代国語）・百ます計算 10. 乳児院採用模擬試験・文章問題解説 11. 一般教養（割合を用いた計算）・個人情報 12. 一般教養（漢字） 13. 振り返り学習 14. 振り返り学習（試験対策） 15. まとめ</p>		<p>16. 一般教養（四則計算：基礎） 17. 一般教養（四則計算：応用） 18. 一般教養（文章題：時間・速度・距離） 19. 一般教養（文章題：割合） 20. 一般教養（日本の地理：都道府県） 21. 一般教養（日本の地理：特産品） 22. 一般教養（世界の地理） 23. 中間振り返り 24. 障害者の人権 25. さまざまな人権 26. 個人情報の取り扱いとSNS 27. 正しい掃除の仕方 28. 掃除の実践練習（グループ1） 29. 掃除の実践練習（グループ2） 30. まとめ</p>	
<b>教科書</b>			
<p>テキストは使用しません。随時プリントを配布します。</p>			
<b>授業の形態 演習</b>			
<p>／方法 　／プリントを用いた学習に加え、就職試験、就職に向けての実践演習を行います。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>筆記試験 50%、授業参加度（授業態度等）50%で総合的に評価します。</p>			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	体育講義・体育実技	講師名	相奈良 律
実施年次 ／時期	1年次 通年	時間数	60時間
<b>概要</b> 講義と実技を通して、身体運動に関する知識と実践のための方法や技術を身につけることを目的とする。学生自身が身体を動かす楽しさを体験する中で、子どもの発育発達をふまえてのイメージを膨らませ援助・指導に必要な知識や技能を習得する。また、保育者として必要な体力・運動能力の養成を図るために、運動遊びに加え、競技的なスポーツの実践を通して基礎技術の習得、ルールや特性についての理解を深める。			
<b>目標</b> ・各運動を安全かつ効果的に実施するための基本的な動きと基礎的な知識を理解することができる ・技術の高低や得意不得意、好き嫌いにとらわれず、自分の持っている技術を活かし運動そのものを楽しめる能力を身につけることができる ・学び合いを通して仲間とのコミュニケーション力・協調性を高める			
<b>内容</b>			
1. オリエンテーション 幼児体育の理論と現状、幼児の運動遊びの意義 2. 体育の歴史と文化、体育・遊びの概念 3. オリンピック・パラリンピック 4. 体力とは何か 5. 運動指導の留意点と安全への配慮 6. 熱中症、KYT 7. 子どもの遊び場づくり 8. コミュニケーションワーク① (アイスブレイキング) 9. コミュニケーションワーク② (集団ゲーム) 10. 「走」運動① 11. 「走」運動②いろいろな鬼遊び 12. 「投」運動① 13. 「投」運動②ドッジビー 14. サーキットあそび 15. ニュースポーツ①ヘルスパレー	16. 長縄とび、短縄とびの理論と実践① 17. 長縄とび、短縄とびの理論と実践② 18. 器械運動① (マット運動の基本) 19. 器械運動② (とび箱の基本) 20. 器械運動③ (鉄棒運動の基本) 21. 身近な素材を使った運動 (新聞紙) 22. 用具を使った運動① (ボール) 23. 用具を使った運動② (ボール) 24. 用具を使った運動③ (フープ) 25. 用具を使った運動④ (グループ創作) 26. ニュースポーツ②インディアカ 27. 模擬保育指導案作成 28. 模擬保育実践①・ふりかえり 29. 模擬保育実践②・ふりかえり 30. まとめ		
<b>教科書</b>	使用しない 必要に応じて適宜、資料を配布する		
<b>授業の形態</b> ／ <b>方法</b>	講義・演習 ／講義は教室、実技はアリーナを主に使用する 毎時、講義ノートに感想や気づきを記録する		
<b>評価方法</b>	講義・・・出席・受講態度 40%、筆記試験 60% 演習・・・出席・受講態度 60%、実技試験 40%		
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	保育原理	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	30時間
<b>概要</b> 子どもを取り巻く現状を知り、乳幼児期の特性を理解した上で、保育の意義や目的を理解し、保育の内容と方法を学ぶ。また、保育の歴史的変遷を理解し、保育における現状や課題について理解を深める。			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の意義と目的を理解し、保育者としての基礎的な知識や技術を身に付けることができる</li> <li>2. 幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づく、保育内容や方法について理解できる</li> <li>3. 保育に関する法令及び制度を理解できる</li> <li>4. 保育の思想と歴史的変遷について理解できる</li> <li>5. 子どもを取り巻く環境の変化を理解し、保育の世界における現状や課題について理解できる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「保育」とは何か① 保育の理念と概念</li> <li>2. 「保育」とは何か② 子どもの育ちと発達</li> <li>3. 「保育」とは何か③ 保育の対象と保育施設</li> <li>4. 保育の基本① 保育の制度</li> <li>5. 保育の基本② 生活と遊び</li> <li>6. 保育の歴史① 海外の保育思想と歴史</li> <li>7. 保育の歴史② 日本の保育思想と歴史</li> <li>8. 保育の基本と保育内容・方法① 乳児と1・2歳児</li> <li>9. 保育の基本と保育内容・方法② 3歳以上児</li> <li>10. 小学校との接続</li> <li>11. 保育の計画と評価</li> <li>12. 保育における健康・安全の原理</li> <li>13. 保育者の専門性</li> <li>14. 保育の現状と課題</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>教科書</b>			
『つながる保育原理』井上孝之・小原敏郎・三浦主博 編 (みらい)			
『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原文>』文部科学省 厚生労働省 内閣府 (チャイルド本社)			
<b>授業の形態</b> ／方法	<b>講義</b> ／教科書を使用し、レジュメや資料を配布する。		
<b>評価方法</b>	筆記試験 50%、授業参加度 (提出物、授業態度など) 50%で総合的に評価する。		
<b>その他の事項</b>	幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	教育原理	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30時間
<p><b>概要</b> 教育原理は、教育の本質や目的、内容や方法などについて、基本的な知見を蓄えることが期待される科目である。本授業では、教育の研究や実践に不可欠だと考えられる概念や議論を、出来るだけ分かりやすく紹介・解説し、教育に関する歴史や思想にふれながら基本的な考え方について理解を深めることを目的とする。また、「教育とは何か」という問いかけに対して、幼稚園・保育所の歴史を通して、今後教育はどうあるべきかを問い続ける姿勢を身に付ける。</p>			
<p><b>目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解できる</li> <li>2. 教育思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解できる</li> <li>3. 教育の制度について理解できる</li> <li>4. 教育実践の様々な取り組みについて理解できる</li> <li>5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解できる</li> </ol>			
<p><b>内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 教育とは</li> <li>2. 教育の意義と目的</li> <li>3. 教育と児童福祉</li> <li>4. 教育と地域社会</li> <li>5. 教育制度の基本</li> <li>6. 教育の思想と歴史の変遷① 諸外国の教育の歴史</li> <li>7. 教育の思想と歴史の変遷② 日本の教育思想・歴史</li> <li>8. 教育の思想と歴史の変遷③ 近代教育の歴史</li> <li>9. 子ども観と教育観の変遷</li> <li>10. 教育行政および学校経営の基礎</li> <li>11. 保育・教育実践の基礎理論</li> <li>12. 教育実践の多様な取り組み</li> <li>13. 生涯学習社会と教育</li> <li>14. 現代の教育課題</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<p><b>教科書</b> 『いまがわかる教育原理』西本望 編（みらい）</p>			
<p><b>授業の形態</b> 講義</p>			
<p><b>／方法</b> 教科書を使用し、レジュメや資料を配布する。</p>			
<p><b>評価方法</b> 筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。</p>			
<p><b>その他の事項</b> 幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。</p>			

授業科目名	子ども家庭福祉	講師名	北村博文
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30時間
<p><b>概要</b> 子ども家庭福祉とは、全ての子どもに適切な家庭環境を保障することで、子どもと家庭を護るための法律・制度・施設・機関等の社会的支援の状況を知り、他の社会資源と連携して子どもの自立を支援することが保育者の大きな役割である。そのために、子ども家庭福祉に関する基礎的な知識を身につける。</p>			
<p><b>目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども家庭福祉の法体系の理解ができる</li> <li>2. 社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策の理解ができる</li> <li>3. 少子化と地域子育て支援の理解ができる</li> </ol>			
<p><b>内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会と子ども家庭福祉</li> <li>2. 子どもの人権</li> <li>3. 日本における子どもの権利の動向</li> <li>4. 子ども家庭福祉の成立と展開</li> <li>5. 日本の子ども家庭福祉の歩み</li> <li>6. 子ども家庭福祉法の体系</li> <li>7. 子ども家庭福祉の機関と施設</li> <li>8. 子育て支援・次世代育成支援と保育施策</li> <li>9. 母子保健施策とひとり親家庭への福祉施策</li> <li>10. 子ども虐待とDV問題の防止施策</li> <li>11. 社会的養護を必要とする子どもへの福祉施策</li> <li>12. 障害のある子どもへの福祉施策</li> <li>13. 心理治療の必要性や非行問題を抱える子どもへの支援</li> <li>14. 子ども家庭福祉の専門職と連携</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<p><b>教科書</b> 「子ども家庭福祉」喜多一憲 監修・堀場純矢 編集 (株)みらい 発行</p>			
<p><b>授業の形態 講義</b></p> <p>／方法 教科書を使用する。</p>			
<p><b>評価方法</b> 筆記試験90%、小テストと授業参加度(態度など)10%で総合的に評価する。</p>			
<p><b>その他の事項</b></p>			

授業科目名	社会福祉	講師名	水野 謙二
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	30時間
<b>概要</b>			
<p>本科目では、現代の社会福祉に至るまでに辿ってきた歴史的変遷を通して、社会福祉の根幹をなす人権や生存権などの概念や、社会福祉法や老人福祉法といった現代の法制度、児童相談所や社会福祉法人などの社会福祉に関わる団体や機関などの現代の社会福祉の仕組みや現状について理解する。また、ソーシャルワークの定義や原則、福祉専門職として身につけることが望ましい傾聴や受容といった技術について理解する。</p>			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解することができる</li> <li>2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解することができる</li> <li>3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解することができる</li> <li>4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解することができる</li> <li>5. 社会福祉の動向と課題について理解することができる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の理念と概念</li> <li>2. 子どもの家庭支援と社会福祉</li> <li>3. 欧米の社会福祉の歴史的変遷と現状</li> <li>4. 日本の社会福祉の歴史的変遷</li> <li>5. 社会福祉の法制度</li> <li>6. 社会福祉の実施機関と施設</li> <li>7. 社会福祉のサービス提供主体と在宅福祉・地域福祉の推進</li> <li>8. 共生社会の実現と障害者施策</li> <li>9. 社会福祉専門職</li> <li>10. ソーシャルワークの定義</li> <li>11. ソーシャルワークの過程</li> <li>12. ソーシャルワークの方法と技術</li> <li>13. 社会福祉における利用者保護にかかわる仕組み</li> <li>14. 社会保障制度</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>教科書</b>	子どもと社会の未来を拓く『社会福祉』（青鞥社）		
<b>授業の形態</b>	講義		
<b>／方法</b>	／教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用。		
<b>評価方法</b>	筆記試験 50%、授業時に行うレポート・課題への対応・発表業況など 50%		
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	子ども家庭支援論	講師名	岸本 千晶
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30時間
<b>概要</b> 家庭とは何か、その形態・意義・機能を考察する。 それらを取り巻く社会状況が大きく変化し、家族も変革を求められている現状を認識する。 それに伴う家族への様々な支援のニーズとその対応が急務となっていることを把握する。			
<b>目標</b> 1. 子育て家庭に対する支援の意義・目的について理解できる 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解できる 3. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援展開と子ども家庭支援の現状と課題について理解できる			
<b>内容</b> 1. オリエンテーション 子ども家庭支援の意義と目的 2. 子ども家庭支援の内容と対象 3. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 4. 子どもの育ちの喜びの共有 5. 保護者および地域が有する子育てをみずから実践する力の向上に資する支援 6. 保育士に求められる基本的態度① 7. 保育士に求められる基本的態度② 8. 家庭の状況に応じた支援 9. 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 10. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 11. 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 12. 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 13. 地域の子育て家庭への支援 14. 要保護児童等およびその家庭に対する支援 15. まとめ			
<b>教科書</b> 「子ども家庭支援論演習ブック」 松本峰雄 大野地平 我謝美左子 小山朝子 遠田康人 野澤純子 編著 ミネルヴァ書房			
<b>授業の形態</b> 講義演習 <b>／方法</b> 教科書・配布プリントを中心に講師による解説・概説を行う			
<b>評価方法</b> 筆記試験 50%、授業の参加度 50%で総合的に評価します。			
<b>その他の事項</b> 保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	社会的養護 I	講師名	松田 貴志
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30 時間
<b>概要</b>			
<p>本科目では、社会的養護の理念や概要、法体系や制度などを理解する。児童虐待や子どもの問題の深刻化・顕在化に伴い、児童福祉施設や里親など社会的養護のもとで生活する子どもは増えている。保育士としてこれらの現状を学び、社会的養護の基本的な内容について理解する。</p>			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会的養護の意義と変遷について理解することができる</li> <li>2. 社会的養護の養育・保護・治療について理解することができる</li> <li>3. 社会的養護の制度と法体系について理解することができる</li> <li>4. 社会的養護の施設養護と家庭養護について理解することができる</li> <li>5. 社会的養護の現状と課題について理解することができる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 現代の子どもを取り巻く環境</li> <li>2. 社会的養護とは何か</li> <li>3. 社会的養護を必要とする子どもの理解と権利</li> <li>4. 社会的養護のしくみ</li> <li>5. 社会的養護の制度と法体系①</li> <li>6. 社会的養護の制度と法体系②</li> <li>7. 社会的養護の歴史</li> <li>8. 支援の実際①</li> <li>9. 支援の実際②</li> <li>10. 支援の実際③</li> <li>11. 社会的養護にかかわる専門職</li> <li>12. ソーシャルワークと家庭支援</li> <li>13. 里親制度と里親支援</li> <li>14. 児童福祉施設の運営管理</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>教科書</b>			
<p>図解で学ぶ保育 『社会的養護 I』 萌文書林</p>			
<b>授業の形態</b> 講義			
<p>／方法 　　／教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用する。  演習はグループワークなどを行います。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>筆記試験 50%、授業時に行うレポート・課題への対応・発表業況など 50%</p>			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	保育者論	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30 時間
<p><b>概要</b> 本授業では、保育者の倫理観に裏付けされた役割や、制度的な位置づけ、歴史的背景などについて学び、子どもの保育と保護者支援を行う保育者の専門性について理解を深めることを目的とする。また、「成長し続ける保育者」をキーワードとし、各自が理想とする保育者像に近づくために、何が必要か、を問い続ける姿勢を大切にしていきたい。</p>			
<p><b>目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者の役割と倫理について理解できる</li> <li>2. 保育者の制度的な位置づけを理解できる</li> <li>3. 保育者の専門性について理解できる</li> <li>4. 保育者の連携・協働について理解できる</li> <li>5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解できる</li> </ol>			
<p><b>内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者とは① 保育者の一日</li> <li>2. 保育者とは② 保育者の制度的位置づけ</li> <li>3. 保育職とは① 保育者としての資質</li> <li>4. 保育職とは② 保育者としての倫理</li> <li>5. 現代の保育にまつわる問題① 子どもを取り巻く環境の変化と現状</li> <li>6. 現代の保育にまつわる問題② 配慮を要する子どもへの理解と対応</li> <li>7. 保育者の役割① 保育者の職務内容</li> <li>8. 保育者の役割② 初任者・中堅者・管理職の役割</li> <li>9. 保育者の専門性① 保育者に求められる資質・能力とは</li> <li>10. 保育者の専門性② 保育の実践の向上</li> <li>11. 保育者の専門性③ 保育の安全管理と危機管理</li> <li>12. 保育者の連携・協働① 保護者・家庭とのかかわり</li> <li>13. 保育者の連携・協働② 関連機関や地域との連携</li> <li>14. 保育者の資質向上とキャリア形成</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
教科書	『保育者論 ー子どものかたわらに』小川圭子 編 (みらい)		
授業の形態	講義		
／方法	／教科書を使用し、レジュメや資料を配布する。		
評価方法	筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。		
その他の事項	幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	保育の心理学	講師名	野出 榮一
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	30時間
<b>概要</b>			
<p>保育士は、子どもと1対1で向き合う直接的な保育活動や保育士が前に立って関わる集団に向けての活動、環境構成などといった間接的な促しなどのさまざまな活動を担います。その活動の根底には、子どもの発達のプロセスや特性を理解し、実践の場で活用するスキルが求められます。この授業では、主に発達心理学の知見をもとに、子どもと保育の楽しさや難しさに触れていきます。</p>			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実践に関わる発達理論などの心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解できる</li> <li>2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深められる</li> <li>3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解できる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 発達理解の意義と子ども観・保育観</li> <li>3. 遺伝・環境と生涯発達</li> <li>4. 発達段階</li> <li>5. 胎児期から乳児期の発達</li> <li>6. 幼児期の発達</li> <li>7. 子どもの発達と環境</li> <li>8. 感情の発達と自我</li> <li>9. 身体的機能と運動機能の発達</li> <li>10. 知覚と認知の発達</li> <li>11. 言葉の発達と社会性</li> <li>12. 乳幼児期の学びにかかわる理論</li> <li>13. 乳幼児期の学びの過程と特性</li> <li>14. 乳幼児期の学びを支える保育・教育</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>教科書</b>	プリントを配布するほか、以下の教科書を用いる シリーズ知のゆりかご 保育の心理学（青木紀久代編、みらい 2019）		
<b>授業の形態</b>	講義・演習		
<b>／方法</b>	／講義はプリントを使用。演習はグループワークを実施。		
<b>評価方法</b>	平常点(40点)・期末試験(60%)		
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	子ども家庭支援の心理学	講師名	野出 榮一
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30時間
<p><b>概要</b> 子どもおよび子育て家庭の支援について理解する科目です。子どもの支援に関しては、生涯発達に関する心理学の基礎知識や子どもの精神保健について学びます。子育て家庭の支援については、家族・家庭の意義・機能を理解した上で、子育て家庭をめぐる社会的状況と課題に触れます。それぞれの理解や支援を通して、子どもの発達における初期経験の重要性や、最も子どもに近い環境である家族・家庭への支援の必要性を検討します。</p>			
<p><b>目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解することができる</li> <li>2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得できる</li> <li>3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について検討できる</li> <li>4. 子どもの精神保健とその課題について検討できる</li> </ol>			
<p><b>内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 乳幼児から学童期前期にかけての発達</li> <li>3. 学童期後期から青年期にかけての発達</li> <li>4. 成人期・老年期における発達</li> <li>5. 家族・家庭の意義と機能</li> <li>6. 親子関係・家族関係の理解</li> <li>7. 子育ての経験と親としての育ち</li> <li>8. 子育てを取り巻く社会的状況</li> <li>9. ライフコースと仕事・子育て</li> <li>10. 多様な家族とその理解</li> <li>11. 特別な配慮を要する家庭</li> <li>12. 子どもの生活・生育環境とその影響</li> <li>13. 子どものこころの健康に関わる問題</li> <li>14. 保育士と子ども家庭支援</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
教科書	プリントを配布するほか、以下の教科書を用いる シリーズ知のゆりかご 子ども家庭支援の心理学 (青木紀久代編 みらい 2020)		
授業の形態	講義・演習		
／方法	／講義はプリントを用います。演習はグループワークなどを行います		
評価方法	平常点(40%)・期末試験(60%)		
その他の事項			

授業科目名	子どもの理解と援助	講師名	野出 榮一
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30時間
<b>概要</b>			
<p>子どもは、保育者や友達との関わりや遊びを通して、さまざまな葛藤を経験し、時にはつまずき傷つきながらも、多くを学び生きる力を身につけていきます。保育士は、子どもひとりひとりの発達の課題に合わせ、特別な配慮が必要かどうかを検討しながら、適切な援助や支援を行っています。</p> <p>この授業では、子どもを理解するための基本的な考え方や具体的な方法を理解し、保育士の援助や態度の基本について検討します。</p>			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる</li> <li>2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる</li> <li>3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解できる</li> <li>4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解できる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 保育における子ども理解の意義と原理</li> <li>2. 共感的理解と子どもとの関わり</li> <li>3. 子どもの生活や遊び</li> <li>4. 心の発達と人的環境としての保育者</li> <li>5. 個と集団を大切にする保育の関わりー3歳未満児クラスー</li> <li>6. 個と集団を大切にする保育の関わりー3歳以上児クラスー</li> <li>7. 発達における葛藤やつまずき</li> <li>8. 保育環境の理解と構成</li> <li>9. 観察・記録・評価</li> <li>10. 職員間の対話</li> <li>11. 保護者との情報共有</li> <li>12. 発達の課題に応じた援助と関わり</li> <li>13. 特別な配慮を要する子どもの理解と援助</li> <li>14. 発達の連続性と就学への支援</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>教科書</b>			
<p>プリントを配布するほか、以下の教科書を用いる</p> <p>シリーズ知のゆりかご なぜ?から探る 子どもの理解と援助 (青木紀久代編、みらい 2023)</p>			
<b>授業の形態</b>			
講義・演習			
<b>／方法</b>			
／講義はプリントを用います。演習はグループワークなどを行います			
<b>評価方法</b>			
平常点(40%)、期末試験(60%)			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	子どもの保健	講師名	飯盛 順子
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	30 時間
<b>概要</b>			
子どもの発育・発達を円滑に促す保健活動を学び、子どもが健やかに発育・発達できる支援の方法を修得する。更には疾病が子どもに与える影響を理解した上で、その影響が最小となる為の援助・施策が理解できる。			
<b>目標</b>			
1. 子どもの心身の健康に関わる保健活動の意義を理解し、子どもの健康の現状と施策が理解できる			
2. 子どもの発育・発達に関する知識を修得し、健康状態や健康問題の判断ができ、健やかに育つための支援の方法が理解できる			
3. 子どもの疾病とその予防法及び多職種間の連携・協働の下での適切な対応方法が理解できる			
<b>内容</b>			
1. 子どもの健康と保健活動の意義 1	子どもの健康		
2. 子どもの健康と保健活動の意義 2	子どもの健康、生命の誕生 (DVD 視聴)		
3. 子どもの健康と保健活動の意義 3	子どもに係る保健活動の目的と内容		
4. 子どもの健康に関する現状と課題 1	子どもの健康指標		
5. 子どもの健康に関する現状と課題 2	母子保健対策にみる現状と課題		
6. 子どもの健康に関する現状と課題 3	子どもを取り巻く環境		
7. 子どもの発育発達と保健 1	子どもの身体の発育と保健		
8. 子どもの発育発達と保健 2	子どもの心身の発達と保健		
9. 子どもの健康状態の把握と対応 1	子どもの健康状態の把握と評価		
10. 子どもの健康状態の把握と対応 2	健康診断 (健康診査)		
子どもの疾病と対応 1	子どもが病気にかかりやすい発達上の特徴		
11. 子どもの疾病と対応 2	子どもに多くみられる感染症の特徴と対応		
12. 子どもの疾病と対応 3	アレルギー疾患の理解と対応		
13. 子どもの疾病と対応 4	乳幼児期の基本的な生活習慣形成の意義と健康問題		
14. 復習とまとめ			
15. 復習とまとめ			
<b>教科書</b>			
「図解 子どもの保健 I 第 2 版」服部右子・大森正英 編 (株式会社みらい)			
<b>授業の形態</b> 講義			
／方法	／教科書を中心に使用、必要により厚労省発出の各種ガイドラインを使用		
<b>評価方法</b>			
平常点	10 点	(私語を慎み、教科書を忘れない等、積極的な授業態度)	
定期試験	70 点		
その他	20 点	(小テスト・レポート等必要に応じて実施)	
<b>その他の事項</b> 看護師として 5 年以上の実務経験のある教員が講義を行う			

授業科目名	子どもの食と栄養	講師名	大杉 加菜子		
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	60時間		
<p><b>概要</b> 本科目では、栄養や食に関する基礎知識を学び、子どもの健康と食生活のつながり、子どもの発育・発達期別栄養の特徴を理解する。また家庭や児童福祉施設における食事と栄養の意義という視点を持ち、食育や特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学習する。</p>					
<p><b>目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康的な食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解できる</li> <li>2. 子どもの発育・発達期別栄養の特徴を理解できる</li> <li>3. 食育の基本と内容を理解できる</li> <li>4. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養の現状と課題について理解できる</li> <li>5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解できる</li> </ol>					
<p><b>内容</b></p> <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養学とは</li> <li>2. 炭水化物</li> <li>3. 脂質</li> <li>4. たんぱく質</li> <li>5. ビタミン（脂溶性）</li> <li>6. ビタミン（水溶性）</li> <li>7. 無機質（マクロ）</li> <li>8. 無機質（ミクロ）</li> <li>9. 水について</li> <li>10. 食事摂取基準</li> <li>11. 栄養生理（消化のしくみ）</li> <li>12. 栄養生理（吸収のしくみ）</li> <li>13. 栄養生理（食欲と味覚）</li> <li>14. 献立作成・衛生管理</li> <li>15. まとめ</li> </ol> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 妊娠期の栄養</li> <li>17. 授乳期の栄養</li> <li>18. 新生児期の栄養</li> <li>19. 乳児期の栄養</li> <li>20. 離乳期の栄養</li> <li>21. 幼児期の栄養</li> <li>22. 学童期の栄養</li> <li>23. 食育の基本</li> <li>24. 食育の計画・活用</li> <li>25. 食物アレルギーとは</li> <li>26. 食物アレルギーへの対応</li> <li>27. 児童福祉施設給食</li> <li>28. 和食</li> <li>29. 行事食・郷土料理</li> <li>30. まとめ</li> </ol> </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養学とは</li> <li>2. 炭水化物</li> <li>3. 脂質</li> <li>4. たんぱく質</li> <li>5. ビタミン（脂溶性）</li> <li>6. ビタミン（水溶性）</li> <li>7. 無機質（マクロ）</li> <li>8. 無機質（ミクロ）</li> <li>9. 水について</li> <li>10. 食事摂取基準</li> <li>11. 栄養生理（消化のしくみ）</li> <li>12. 栄養生理（吸収のしくみ）</li> <li>13. 栄養生理（食欲と味覚）</li> <li>14. 献立作成・衛生管理</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 妊娠期の栄養</li> <li>17. 授乳期の栄養</li> <li>18. 新生児期の栄養</li> <li>19. 乳児期の栄養</li> <li>20. 離乳期の栄養</li> <li>21. 幼児期の栄養</li> <li>22. 学童期の栄養</li> <li>23. 食育の基本</li> <li>24. 食育の計画・活用</li> <li>25. 食物アレルギーとは</li> <li>26. 食物アレルギーへの対応</li> <li>27. 児童福祉施設給食</li> <li>28. 和食</li> <li>29. 行事食・郷土料理</li> <li>30. まとめ</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養学とは</li> <li>2. 炭水化物</li> <li>3. 脂質</li> <li>4. たんぱく質</li> <li>5. ビタミン（脂溶性）</li> <li>6. ビタミン（水溶性）</li> <li>7. 無機質（マクロ）</li> <li>8. 無機質（ミクロ）</li> <li>9. 水について</li> <li>10. 食事摂取基準</li> <li>11. 栄養生理（消化のしくみ）</li> <li>12. 栄養生理（吸収のしくみ）</li> <li>13. 栄養生理（食欲と味覚）</li> <li>14. 献立作成・衛生管理</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. 妊娠期の栄養</li> <li>17. 授乳期の栄養</li> <li>18. 新生児期の栄養</li> <li>19. 乳児期の栄養</li> <li>20. 離乳期の栄養</li> <li>21. 幼児期の栄養</li> <li>22. 学童期の栄養</li> <li>23. 食育の基本</li> <li>24. 食育の計画・活用</li> <li>25. 食物アレルギーとは</li> <li>26. 食物アレルギーへの対応</li> <li>27. 児童福祉施設給食</li> <li>28. 和食</li> <li>29. 行事食・郷土料理</li> <li>30. まとめ</li> </ol>				
<p><b>教科書</b> 「子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養」 堤ちはる、土井正子 編著（萌文書林）</p>					
<p><b>授業の形態</b> 演習</p>					
<p><b>／方法</b> 基礎を学んだのち、模擬事例等で展開する</p>					
<p><b>評価方法</b> 筆記試験60%、平常点40%で総合的に判断する</p>					
<p><b>その他の事項</b></p>					

授業科目名	カウンセリング	講師名	野出 榮一
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30時間
<b>概要</b>			
<p>カウンセリングの本来の働きはカウンセリングのプロセスに潜むより深い意味の発見にある。その第1は、「自分と付き合えるようになること」である。第2に、「人の違いを受け止められるようになること」違いは違いで会って間違いではない、「自他の区別」を理解できること。第3に、「ヒューマンエラーを認め、赦せるようになること」人間は不完全であることを認めることができることである。</p> <p>この授業では、カウンセリングの理論や技法を学びながら、保育者として「カウンセリングマインド」を基盤とした日常的な課題解決のスキルを身に付けていきます。</p>			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カウンセリングの理論やスキルを学び、その実践をすることによって、課題の予防や解決についての効果的な方法やスキルを身につけられる。</li> <li>2. グループ・ワークでのふれあい経験やカウンセリングスキルのトレーニングを通して、自己や他者について理解できる。</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（カウンセリングとは・カウンセリングを学ぶ）</li> <li>2. カウンセリングの基礎となる人間観（1）人間信頼論</li> <li>3. カウンセリングの基礎となる人間観（2）人間性心理学の人間観</li> <li>4. カウンセリングの基礎となる心理学理論（1）人間の行動とことば</li> <li>5. カウンセリングの基礎となる心理学理論（2）カウンセリングと類似の支援との違い</li> <li>6. 代表的なカウンセリング理論・技法（1）精神分析的アプローチ</li> <li>7. 代表的なカウンセリング理論・技法（2）来談者中心療法</li> <li>8. 代表的なカウンセリング理論・技法（3）行動療法</li> <li>9. 代表的なカウンセリング理論・技法（4）認知行動療法</li> <li>10. 代表的なカウンセリング理論・技法（5）家族カウンセリング</li> <li>11. 代表的なカウンセリング理論・技法（6）グループ・アプローチ</li> <li>12. 代表的なカウンセリング理論・技法（7）統合的アプローチ</li> <li>13. カウンセラーの養成・訓練・資格</li> <li>14. 心理専門職の職務と倫理</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>教科書</b>	プリントを配布するほか、以下の教科書を用いる 新・カウンセリングの話（平木典子著 朝日新聞出版 2020）		
<b>授業の形態</b>	講義・演習		
<b>／方法</b>	／講義はプリントを用いる。演習はグループ・ワークなどを行う。		
<b>評価方法</b>	平常点(40%)・期末試験(60%)		
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	保育の計画と評価	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30時間
<b>概要</b> 本授業は、乳幼児期の保育を実践する上で、必要不可欠となる計画についての基礎となる理論を学び、保育の計画の作成を通して、保育を見通す力を養うことを目的とする。また、保育計画の意義について理解を深め、「何のため」「誰のため」の計画であるかを学ぶ。			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解できる</li> <li>2. 保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に理解することができる</li> <li>3. 計画、実践、省察・評価、改善の過程について、その全体構造を捉え理解できる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の計画と評価の基本① 保育の目標と計画の基本</li> <li>2. 保育の計画と評価の基本② 保育におけるカリキュラム</li> <li>3. 保育の計画と評価の基本③ 子ども理解に基づく計画と評価</li> <li>4. 保育計画の実際① 全体的な計画</li> <li>5. 保育計画の実際② 長期的な指導計画の立案（0.1.2歳児）</li> <li>6. 保育計画の実際③ 長期的な指導計画の立案（3歳以上児）</li> <li>7. 保育計画の実際④ 短期的な指導計画の立案（0.1.2歳児）</li> <li>8. 保育計画の実際⑤ 短期的な指導計画の立案（3歳以上児）</li> <li>9. 指導計画作成上の留意事項① 0.1.2歳児</li> <li>10. 指導計画作成上の留意事項② 3歳以上児</li> <li>11. 指導計画作成上の留意事項③ 異年齢</li> <li>12. 指導計画に基づく保育の柔軟な展開</li> <li>13. 保育の記録と省察</li> <li>14. 保育の評価と改善</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>教科書</b> 『保育の計画と評価 演習ブック』松本峰雄 監修（ミネルヴァ書房）			
<b>授業の形態</b> 講義			
／ <b>方法</b> 教科書を使用し、レジュメや資料を配布する。			
<b>評価方法</b> 筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。			
<b>その他の事項</b> 幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	保育内容総論	講師名	岸本 千晶
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30時間
<b>概要</b> 幼稚園や保育所における「保育」の全体構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助や指導について保育の流れを概観し、保育実践と結び付けながら学ぶことを目的とする。			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解できる</li> <li>2. 養護と教育が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解できる</li> <li>3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を理解できる</li> <li>4. 保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解できる</li> <li>5. 保育の多様な展開について具体的に理解できる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の全体構造と保育内容</li> <li>2. 保育所保育指針に基づく保育内容の理解① 養護</li> <li>3. 保育所保育指針に基づく保育内容の理解② 教育</li> <li>4. 保育内容の歴史の変遷とその社会的背景</li> <li>5. 子どもの発達や生活に即した保育内容とは</li> <li>6. 保育内容の展開① 養護と教育が一体的に展開される保育</li> <li>7. 保育内容の展開② 子どもの主体性を尊重する保育</li> <li>8. 保育内容の展開③ 環境を通して行う教育</li> <li>9. 保育内容の展開④ 生活や遊びによる総合的な保育</li> <li>10. 保育内容の展開⑤ 個と集団の発達をふまえた保育</li> <li>11. 保育内容の展開⑥ 家庭や地域等の連携をふまえた保育</li> <li>12. 保育内容の展開⑦ 小学校との連携・接続をふまえた保育</li> <li>13. 保育の多様な展開① 特別な配慮を要する子どもの保育</li> <li>14. 保育の多様な展開② 多文化共生の保育</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>教科書</b>	『生活事例からはじめる 保育内容総論』神蔵幸子 宮川萬寿美 著書（青踏社）		
<b>授業の形態</b>	演習		
<b>／方法</b>	／教科書や資料を使用し、グループワークやロールプレイングを中心に授業を進める。		
<b>評価方法</b>	筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。		
<b>その他の事項</b>	保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	健 康	講師名	岸本 千晶
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	30 時間
<b>概要</b> 健康に生きるとはどのようなことを表しているのでしょうか。子どもの心と身体の育ちを学ぶとともに、豊かな育ちを支える援助のあり方について理解できるようにしていきましょう。			
<b>目標</b> 1. 保育所保育指針における領域「健康」のねらいおよび内容について理解できる 2. 子ども自らが健康的な生活習慣を獲得するために適切な援助や指導ができる			
<b>内容</b> 1. オリエンテーション 健康とは 2. 保育内容と領域「健康」 3. 心と体の発達と健康 4. 基本的な生活習慣の形成 5. 「食」と健康 6. 安全な生活 7. 遊具と遊び 8. いろいろな鬼遊び 9. ボール遊び・なわ遊び 10. よく動く心と体 11. 運動会 12. 水遊び・プール指導 13. 園外活動 14. 親子で楽しむ遊び 15. まとめ			
<b>教科書</b> 保育内容「健康」改訂版 岸井慶子 編著 大学図書出版			
<b>授業の形態</b> 演習 ／方法 教科書および配布プリントによる講義およびグループワーク等の演習を行います。			
<b>評価方法</b> 筆記試験 50%、授業の参加度 50%で総合的に評価します。			
<b>その他の事項</b> 保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	人間関係	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30時間
<b>概要</b> 本授業では、現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、人とかかわることの意義や意味を学んだ上で、領域「人間関係」の基礎理論の理解を深めることを目的とする。			
<b>目標</b>			
1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取扱いについて理解できる			
2. 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達など子どもを深く理解し、保育実践に応用できる			
3. 養育者・保育者など子どもを取り巻く人的環境における関係性について理解を深めることができる			
<b>内容</b>			
1. 保育・幼児教育の基本			
2. 乳幼児と人間関係における現代的課題			
3. 乳児における人と関わる力の発達と保育			
4. 1歳以上3歳未満児における人と関わる力の発達と保育			
5. 3歳以上児における人と関わる力の発達と保育			
6. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」における領域「人間関係」			
7. 遊びのなかで育つ人間関係① 人とのかかわりと遊び			
8. 遊びのなかで育つ人間関係② 子どもの遊び体験			
9. 人とのかかわりを育てる保育の実践① 保育現場での実際			
10. 人とのかかわりを育てる保育の実践② 遊びを通した総合的指導			
11. 家庭や地域との連携① 子育て支援と家庭の連携			
12. 家庭や地域との連携② 幼保小の接続・連携			
13. 多様な配慮と保育構想			
14. 子どもの人間関係と社会性・道徳性			
15. まとめ			
<b>教科書</b>	『子どもの姿からはじめる 領域・人間関係』三宅茂夫（みらい）		
<b>授業の形態</b>	演習		
<b>／方法</b>	／教科書や資料を使用し、グループワークやロールプレイングを中心に授業を進める。		
<b>評価方法</b>	筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。		
<b>その他の事項</b>	幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	環境	講師名	板谷雅子
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30時間
<b>概要</b> 「保育の現場では、様々な環境が相互に関連し合い、子どもの豊かな育ちを支えている。」その環境を通して行われる保育とはどのようなものか、この授業で学ぶ			
<b>目標</b> 1. 保育所保育指針における領域「環境」のねらいおよび内容について理解できる 2. 子どもの感性を育むための「環境」について、実践事例をもとにしながら理解することができる 3. 保育現場における環境構成の在り方を実践することができる			
<b>内容</b> 1. オリエンテーション 2. 領域「環境」とは 3. 人的環境とは 4. 自然環境とは 5. 物的環境とは 6. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 7. 幼児の遊びの環境 8. 幼児の遊びの環境 9. 園の環境をデザインする 10. 園の環境をデザインする 11. 園の環境をデザインする 12. 園の環境をデザインする 13. 園の環境をデザインする 14. 園の環境をデザインする 15. まとめ			
<b>教科書は使わず、随時プリントを配布</b>			
<b>授業の形態 演習</b> <b>／方法</b> 配布プリントによる講義およびグループワーク等の演習を行います。			
<b>評価方法</b> 筆記試験 50%、提出物 30%、授業の参加度 20%で総合的に評価します。			
<b>その他の事項</b> 幼稚園教諭として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。			

授業科目名	言葉	講師名	岸本 千晶
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	30 時間
<b>概要</b> 言葉は人間が持つ特有のコミュニケーション手段です。乳幼児期の子どもたちがどのように言葉を獲得し、社会とのつながりを築いていくのか学んでいきましょう。			
<b>目標</b> 1. 保育所保育指針における領域「言葉」のねらいおよび内容について理解できる 2. 乳幼児の言葉の発達過程を知り、保育者にとって望ましい援助のあり方について理解できる 3. 私たちが用いる日本語の魅力に気付くことができる			
<b>内容</b> 1. オリエンテーション 2. 人間と言葉 3. 乳幼児期の言葉の獲得 4. 言葉の豊かさ 5. 領域「言葉」とは 6. 領域「言葉」のねらいと内容 7. 子どもの発達と言葉 8. 前言語期のコミュニケーションと保育 9. 話し言葉の機能と発達 10. 書き言葉の機能と発達 11. 言葉に関する諸問題 12. 子どもとデジタルメディア 13. 言葉を育む保育の構想 14. 現代社会と言葉 15. まとめ			
<b>教科書</b>	『保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」』 馬見塚昭久／小倉直子 ミネルヴァ書房		
<b>授業の形態</b> ／ <b>方法</b>	演習 ／ 前期「言語表現」で学んだことを踏まえ、領域「言葉」の理解を深めるための演習を行います。		
<b>評価方法</b>	筆記試験 60%、レポート 30%、授業の参加度 10%で総合的に評価します。		
<b>その他の事項</b>	保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	表現 I	講師名	森崎 良尚
実施年次 ／時期	1年次 後期	時間数	30 時間
<b>概要</b>			
<p>保育内容を理解し、子どもの音楽表現遊び・身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を自己発見・自己表現という一つの表現手法の流れに従い、音楽表現領域・身体表現領域・言語表現領域から見出し、保育方法を習得していくことを目的とする。また、子どもの音楽表現・身体表現の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識も合わせて習得する。</p> <p>授業内容や順序は、皆さんの様子や到達状況を見て調整する場合があります。</p>			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一人で人前に出て笑顔で元気よく、また活舌良く話すことができる</li> <li>2. 絵本の読み聞かせ・紙芝居・手遊び・なぞなぞ・ピアノ弾き歌いの基礎を身に着けることができる</li> <li>3. 模擬設定保育を通して、保育者や子どもの言動を理解し実践できる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 100 種類の歩き方による表現遊び（発想の転換）</li> <li>2. 一人で人前に出て表現活動開始</li> <li>3. 一芸披露と表現力観察</li> <li>4. 笑顔キープと滑舌</li> <li>5. 人と目を合わす 良い姿勢 立ち居振る舞い</li> <li>6. 絵本の持ち方・使い方・読み聞かせ①</li> <li>7. 紙芝居・手遊び歌の方法と実践①</li> <li>8. ピアノ弾き歌い・なぞなぞの方法と実践①</li> <li>9. 模擬設定保育（先生ごっこ）練習</li> <li>10. 模擬設定保育（先生ごっこ）練習</li> <li>11. 模擬設定保育（先生ごっこ）発表</li> <li>12. 絵本の持ち方・使い方・読み聞かせ②</li> <li>13. 紙芝居・手遊び歌の方法と実践②</li> <li>14. ピアノ弾き歌い・なぞなぞの方法と実践②</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>教科書</b>	適宜資料配布		
<b>授業の形態</b>	演習		
<b>／方法</b>	<p>／授業前半：毎回一人で人前に出て、与えられた課題にチャレンジする。</p> <p>授業後半：グループワークなどで表現活動を行い保育方法を学ぶ。</p>		
<b>評価方法</b>	毎時間の実技試験と期末実技試験		
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	乳児保育 I	講師名	上田 香
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	30 時間
概要	少子化対策や子育て支援の充実が社会で注目される中、乳児保育のニーズはますます高まりを見せています。本授業では、現場において細やかな対応が求められる乳児の育ちを正しく理解し、一人一人の心に寄り添える保育者の育成を行います。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷および役割等について理解できる</li> <li>2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解できる</li> <li>3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容について理解できる</li> <li>4. 乳児保育における職員間の連携・協働および保護者や地域との連携について理解できる</li> </ol>		
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 乳児保育の必要性</li> <li>3. 乳児保育の現状</li> <li>4. 法令の理解</li> <li>5. 保育所保育指針とは</li> <li>6. 保育所の役割</li> <li>7. 保育のねらい</li> <li>8. 保育の内容</li> <li>9. 乳児の心の発達</li> <li>10. 乳児の言葉の発達</li> <li>11. 乳児の身体の発達</li> <li>12. 保育者同士の連携について</li> <li>13. おむつ替えと着替えの手順</li> <li>14. 授乳と離乳食</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
教科書	はじめて学ぶ乳児保育 志村聡子 編 同文書院		
授業の形態	講義		
／方法	／教科書および配布プリントによる講義を行います。		
評価方法	筆記試験 80%、授業への参加度 20%で総合的に評価します。		
その他の事項			

授業科目名	乳児保育Ⅱ	講師名	上田 香
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30時間
概要	少子化対策や子育て支援の充実が社会で注目される中、乳児保育のニーズはますます高まりを見せています。本授業では乳児保育Ⅰでの学びを基盤とし、より実践的な学びを深めていくことによって、現場で活躍できる保育士を育成していきます。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3歳児未満の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を理解できる。</li> <li>2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境構成について理解する。</li> <li>3. 乳児保育における計画の作成について理解できる。</li> </ol>		
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 乳児保育の意義</li> <li>3. 子どもの自主性と自発性</li> <li>4. 0・1・2歳児の発達と保育者の援助</li> <li>5. 食事の援助と環境（授乳・離乳食）</li> <li>6. 食事の援助と環境（食事場面から考える）</li> <li>7. 排泄の援助と環境</li> <li>8. 睡眠・休息の援助と環境</li> <li>9. 着脱に関する援助と環境</li> <li>10. 清潔に関する援助と環境</li> <li>11. 乳児保育における健康と安全</li> <li>12. 乳児保育における計画と評価</li> <li>13. 乳児保育における子育て支援</li> <li>14. 乳児保育を支える連携</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
教科書	テキストは使用しません。随時プリント等資料を配布します。		
授業の形態	演習		
／方法	／資料をもとに講義および演習を行います。		
評価方法	筆記試験 60%、授業への参加度 40%で総合的に評価します。		
その他の事項			

授業科目名	子どもの健康と安全	講師名	飯盛 順子									
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30時間									
<b>概要</b> 子どもの個人ならびに集団に対して、その健康と安全を守るために必要な基礎知識と基本技術を学ぶ。『子どもの保健』の学びをフィードバックしながら理解を深め応用できるようにする。												
<b>目標</b>												
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について理解する</li> <li>2. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える</li> <li>3. 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について理解を深める</li> <li>4. 救急時の対応や事故防止、安全管理についての方法を身につける</li> <li>5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する</li> </ol>												
<b>内容</b>												
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. &lt;オリエンテーション&gt;保健計画の作成と活用他、記録と自己評価</li> <li>2. 子どもの健康状態の観察：観察方法、体温、血圧計、呼吸他</li> <li>3. 子どもの健康状態の観察：身体測定の方法とその評価、おんぶの仕方</li> <li>4. 養護技術：抱き方、調乳、与え方他</li> <li>5. 養護技術：身体の清潔、沐浴、衣服の着脱、おむつ</li> <li>6. 看護技術：子どもの病気の特徴、異常症状に気づいたときの対応、吐物や下痢の後始末</li> <li>7. 看護技術：冷（温）罨法、冷湿布、薬の飲ませ方、腹部マッサージ、浣腸食事の与え方</li> <li>8. 感染症の予防、感染症が発生した時の対応</li> <li>9. 配慮をする子どもへの適切な対応 慢性疾患、アレルギー性疾患、乳児、障害のある子ども</li> <li>10. 基本的な生活習慣の自立と健康教育 子どもの保健と環境、排泄習慣、歯みがき指導を学ぶ他</li> <li>11. 日常に起りやすいけがや事故と応急処置、事故防止、安全教育他</li> <li>12. 事故発生時の対応：心肺蘇生法、気道内異物除去法</li> <li>13. 事故発生時の対応：三角巾、包帯の使い方、患者の運び方他</li> <li>14. 集団保育における健康管理 健診、保護者（啓発）支援、スポーツ振興センター、職員の健康管理他</li> <li>15. 復習とまとめ</li> </ol>												
<b>教科書</b>												
「演習 子どもの保健Ⅱ 第2版」今井七重 編（株式会社みらい）												
<b>授業の形態</b> 講義・デモスト・演習												
<b>／方法</b> 必要により DVD などの視聴覚教材を使用												
<b>評価方法</b>												
<table> <tr> <td>平常点</td> <td>10点</td> <td>（私語を慎み、教科書を忘れない等、積極的な授業態度）</td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>20点</td> <td>（小テスト・レポート等の提出とその内容により評価）</td> </tr> </table>				平常点	10点	（私語を慎み、教科書を忘れない等、積極的な授業態度）	定期試験	70点		その他	20点	（小テスト・レポート等の提出とその内容により評価）
平常点	10点	（私語を慎み、教科書を忘れない等、積極的な授業態度）										
定期試験	70点											
その他	20点	（小テスト・レポート等の提出とその内容により評価）										
<b>その他の事項</b> 看護師として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う												

授業科目名	障害児保育	講師名	水野 謙二
実施年次 ／時期	2年次 通年	時間数	60時間
<b>概要</b> 障害児保育を支える理念と、障害の理解と保育における発達の援助について学ぶ。また、保育課程に基づく指導計画の作成と記録や評価について理解し、家庭及び関係機関との連携においても、保護者や家族に対する理解と支援方法を学ぶ。さらに、障がいのある子どもの保育にかかわる現状と課題についても理解する。			
<b>目標</b> 1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解できる。 2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解できる。 3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解できる。 4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解できる。 5. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解できる。			
<b>内容</b> 1. 障害児保育を支える理念 2. 合理的配慮の理解と障害児保育の基本 3. 知的障害児の理解 4. 知的障害児の支援 5. 肢体不自由児・重症心身障害児・医療的ケア児の理解と支援① 6. 肢体不自由児・重症心身障害児・医療的ケア児の理解と支援② 7. 視覚障害児・聴覚障害児の理解と支援① 8. 視覚障害児・聴覚障害児の理解と支援② 9. 言語障害・場面緘黙のある子どもの理解と支援① 10. 言語障害・場面緘黙のある子どもの理解と支援② 11. 発達障害児の理解と支援① (ASD) 12. 発達障害児の理解と支援② (ASD) 13. 発達障害児の理解と支援③ (ADHD/SLD) 14. 発達障害児の理解と支援④ (ADHD/SLD) 15. まとめ		16. 生活課題を抱える家庭の子どもの理解と援助① 17. 生活課題を抱える家庭の子どもの理解と援助② 18. こども同士の関わりと育ちあいと子どもをみる視点① 19. こども同士の関わりと育ちあいと子どもをみる視点② 20. 指導計画及び個別支援計画の作成① 21. 指導計画及び個別支援計画の作成② 22. 保護者や家族に対する理解と支援① 23. 保護者や家族に対する理解と支援② 24. 小学校等との連携、就学に向けて 25. 特別な配慮を必要とする子どもの保育に関わる現状と課題① 26. 特別な配慮を必要とする子どもの保育に関わる現状と課題② 27. 支援事例① 28. 支援事例② 29. 支援事例③ 30. まとめ	
<b>教科書</b> 「障害児保育演習ブック」ミネルヴァ書房			
<b>授業の形態</b> 講義・演習／方法 /教科書を使用する。			
<b>評価方法</b> 筆記試験50%、授業参加度(態度等)50%で総合的に評価する。			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	社会的養護Ⅱ	講師名	松田 貴志
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30時間
<b>概要</b>			
<p>本科目では、社会的養護方法（実践）など基本的な内容について理解し、さらにそれらを演習によって深める。また、社会的養護におけるソーシャルワークや社会資源の活用を学び、保育士に必要な知識、技術、実践について理解を深める。</p>			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども理解に基づく社会的養護について理解することができる</li> <li>2. 社会的養護における計画・記録・自己評価について理解することができる</li> <li>3. 社会的養護の実践について理解することができる</li> <li>4. 虐待の防止と家庭支援について理解することができる</li> <li>5. 保育士の専門性にかかわる知識・技術とその実践について理解することができる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 子どもの権利擁護</li> <li>2. 社会的養護における子どもの理解</li> <li>3. 社会的養護の内容① 日常生活支援</li> <li>4. 社会的養護の内容② 心理的支援</li> <li>5. 社会的養護の内容③ 自立支援</li> <li>6. 施設養護の生活特性および実際① 乳児院等</li> <li>7. 施設養護の生活特性および実際② 障害児施設等</li> <li>8. 家庭養護の生活特性および実際</li> <li>9. アセスメントと個別支援計画の作成</li> <li>10. 記録および自己評価</li> <li>11. 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践</li> <li>12. 社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践</li> <li>13. 社会的養護におけるソーシャルワーク</li> <li>14. 社会的養護における家庭支援</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>教科書</b>			
『新 基本保育シリーズ 18 社会的養護Ⅱ』（中央法規）			
<b>授業の形態</b> 演習			
<b>／方法</b> 教科書を中心とし、必要に応じて資料などを使用する。 演習はグループワークなどを行います。			
<b>評価方法</b>			
筆記試験 50%、授業時に行うレポート・課題への対応・発表業況など 50%			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	子育て支援	講師名	北村博文
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30時間
<b>概要</b> 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の揭示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。また、保育士の行う子育て支援についてさまざまな場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。			
<b>目標</b> 1. 子育て支援の意義と目的の理解ができる 2. 効果的な子育て支援の進め方の理解ができる 3. 児童問題における事例より子育て支援の技術を習得することができる			
<b>内容</b> 1. 現代の保護者を取り巻く子育て環境と子育て支援 2. 保護者との信頼関係をどう築くか — 子育て支援の基本 3. 保育の積み重ねをとおして子どもの成長を共有する 4. 特別な配慮が必要な保護者への支援 5. 地域に開かれた保育所・認定こども園 6. 専門性を活かした子育て家庭への支援 7. 地域の保護者からの相談にこたえる 8. 親としての成長を支える相談援助の基本 9. 保護者に対する相談援助のプロセス 10. 保護者の悩みや相談にどう寄り添うか 11. 保育者としての児童虐待に対する認識 — 児童虐待の実態と子どもへの影響 12. 児童虐待ケースへの対応 — 保育現場での対応とその留意事項 13. 専門職連携とその機関 14. 保護者支援・子育て支援における「関係機関との連携」「地域資源の活用」 15. まとめ			
<b>教科書</b> 「保護者支援・子育て支援」監修：今井和子・近藤幹生 編著：小野崎佳代・石田幸美			
<b>授業の形態</b> 演習 <b>／方法</b> 教科書を使用する。			
<b>評価方法</b> 筆記試験90%、小テストと授業参加度（態度など）10%で総合的に評価する。			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	造形表現Ⅱ	講師名	板谷雅子
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30時間
概要	造形表現の理解を深め、幼児と造形表現の大切さを学ぶ		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまな表現方法を知り、造形表現の理解ができる</li> <li>2. 技法や素材の性質を知り、応用力を身につけることができる</li> <li>3. 子どもの感性を豊かにする造形活動のイメージができる</li> </ol>		
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 子どもの作品を見る（幼児理解）</li> <li>3. 作って遊ぶ（歌絵本）</li> <li>4. 作って遊ぶ（歌絵本）</li> <li>5. 作って遊ぶ（歌絵本）</li> <li>6. 様々な素材を用いて表現する（ちぎり絵）</li> <li>7. 様々な素材を用いて表現する（ちぎり絵）</li> <li>8. 様々な素材を用いて表現する（飛び出すカード）</li> <li>9. 様々な素材を用いて表現する（砂絵）</li> <li>10. 様々な素材を用いて表現する（消しゴムはんこ）</li> <li>11. 様々な素材を用いて表現する（絵手紙）</li> <li>12. 様々な素材を用いて表現する（プラバン）</li> <li>13. 様々な素材を用いて表現する（糸アート）</li> <li>14. 様々な素材を用いて表現する（デコパージュ）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
教科書は使用せず、	必要に応じてプリントを配付		
授業の形態	演習		
／方法	教員による説明や実演などから課題の内容を理解し、学生各自が創意工夫しながら制作に取り組む。		
評価方法	授業態度 20% 課題 60% 試験 20%を総合して評価する		
その他の事項			

授業科目名	表現Ⅱ	講師名	森崎良尚
実施年次 ／時期	2年次 通年	時間数	60 時間
<b>概要</b>			
<p>こども達の表現力を引き出すために、保育者自らが豊かな表現力を身に付けることが大切であることを再確認し「表現Ⅰ」の内容を更に深めます。また、こども達のお手本となるように、日常生活態度や立ち居振る舞いを見直し、プロ意識を高め就職準備を進めます。</p> <p>最終目標は、クラスメイト同士が「お互いを保育者として認め合える」です。楽しく苦勞しましょう。</p> <p>授業内容や順序は、皆さんの様子や到達状況を見て調整する場合があります。</p>			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分自身の表現力を見直し、得意な部分を更に伸ばすことができる</li> <li>2. 自分自身の表現力を見直し、苦手な部分を克服することができる</li> <li>3. 「こども達の表現力を引き出す」を意識した言動を考え、模擬設定保育が実践できる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「表現Ⅰ」の振り返り</li> <li>2. 教育実習準備(「たなばたさま」うた・ピアノ)</li> <li>3. 教育実習準備(「たなばたさま」歌唱指導)</li> <li>4. 教育実習準備(「たなばたさま」設定保育)</li> <li>5. 話し方・聞き方(就職模擬面接)</li> <li>6. 話し方・聞き方(討論)</li> <li>7. 話し方・聞き方(議論)</li> <li>8. 空気で遊ぼう・パントマイム</li> <li>9. ジェスチャーゲーム・人間オブジェ</li> <li>10. ジェスチャーしりとり・1枚の写真</li> <li>11. 間違っって覚えている童謡(どんぐりころころ・ゆき)</li> <li>12. 「どんぐりころころ」1番 群読</li> <li>13. 「どんぐりころころ」2番 歌唱</li> <li>14. 「どんぐりころころ」3番 歌詞創作と振付</li> <li>15. 「どんぐりころころ」発表会</li> <li>16. 模擬設定保育(誕生日会)</li> <li>17. ※保育園・幼稚園・こども園・障害児施設</li> <li>18. 児童養護施設から対象を選び「誕生日会</li> <li>19. で大切にしたいこと」をテーマにグルー</li> <li>20. プ内で保育者役と子ども役を決め実施</li> <li>21. 絵本と効果音①</li> <li>22. 絵本と効果音②</li> <li>23. ストーリー性のある身体表現①</li> <li>24. ストーリー性のある身体表現②</li> <li>25. こどもの表現力を引き出す手がかり・卒業課題</li> <li>26. 指導者の表現力を磨き続ける手がかり・卒業課題</li> <li>27. 指導者の表現力と子どもの表現力の関係性・卒業課題</li> <li>28. 表現Ⅰ・Ⅱを通して自分の表現力を振り返る・卒業課題</li> <li>29. あなたが保育者として望む子どもの表現力・卒業課題</li> <li>※25～29 自己肯定感を高める方法と実践</li> <li>30. 卒業課題 発表会</li> </ol>			
<b>教科書</b>	適宜資料配布		
<b>授業の形態</b>	<b>演習</b>		
<b>／方法</b>	<p>／授業前半：毎回一人で前に出て、与えられた課題にチャレンジする。</p> <p>授業後半：グループワークなどで表現活動を行い保育方法を学ぶ。</p>		
<b>評価方法</b>	<b>毎時間の実技試験と期末実技試験</b>		
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	音楽表現 I	講師名	森崎 他
実施年次 ／時期	I 年次 通年	時間数	60 時間
<b>概要</b>			
<p>保育内容を理解し、具体的な音楽表現活動が展開できる技術と音楽的知識の習得を目的とする。また保育内容にそって、子どもの音楽活動を援助し、成長過程における豊かな人格形成（情緒・表現鑑賞等）を育成することをテーマに学習する。</p>			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ト音記号・ヘ音記号の読譜ができる</li> <li>2. 右手弾き→右手弾き歌い→左手弾き→左手弾き歌い→両手弾き→両手弾き歌いの練習過程を理解し実践できる</li> <li>3. 前奏から歌に入る際に「さんはい」の合図ができる</li> <li>4. 子どものうたピアノ弾き歌いを、合格基準に従い、1年間に最低 15 曲合格できる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クラス分け・オリエンテーション</li> <li>2. ※以降の授業は、入学合格者課題である数</li> <li>3. 曲の到達度をもとに、各々のレベルに応</li> <li>4. じた個人レッスンや、基礎楽典指導を実</li> <li>5. 施する。</li> <li>6.</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13.</li> <li>14.</li> <li>15. 前期のまとめとして発表会を実施</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. ※個人の上達に合わせてピアノ教則本</li> <li>17. を使用する。ただし、バイエル 66 番</li> <li>18. 以降のレベルの曲とする。</li> <li>19. 保育所実習での課題曲も曲数カウント</li> <li>20. の対象とする。</li> <li>21.</li> <li>22.</li> <li>23.</li> <li>24.</li> <li>25.</li> <li>26. 保育所実習課題曲到達度確認</li> <li>27. 保育所実習課題曲到達度確認</li> <li>28.</li> <li>29.</li> <li>30. 後期のまとめとして発表会を実施</li> </ol>		
<b>教科書</b>			
保育のうた・こどものうた 120			
<b>授業の形態 演習</b>			
／方法 5～6名のグループに分かれての個人レッスンとグループレッスン。			
<b>評価方法 授業中に合格した曲数と実技試験。</b>			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	造形表現 I	講師名	板谷雅子
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	30 時間
<b>概要</b> ①造形の基本的な理論と基礎技術を習得する ②具体的にテーマに沿った制作を体験し発達段階に応じた、子どもの造形活動の具体的な支援方法、「素材の設定」「環境準備」「道具の扱い」「声かけ」「指示方法」「ねらい」などを理解する。			
<b>目標</b> 1. 子どもの発達と造形表現について理解できる 2. 造形の基礎的な知識や技術を習得できる 3. 造形表現の良さや楽しさを実感し、感性を豊かできる (授業中の作業速度、内容理解や興味に応じて内容は、可変)			
<b>内容</b> 1. オリエンテーション 2. 作品袋づくり 3. 作品袋づくり 4. 色について 5. 平面技法の基本 モダンテクニックを使って (マーブリング) 6. 平面技法の基本 マーブリングを使ってうちわづくり 7. 平面技法の基本 モダンテクニックを使って (スクラッチ) 8. 平面技法の基本 モダンテクニックを使って (スクラッチ) 9. 平面技法の基本 モダンテクニックを使って (はじき絵) 10. 平面技法の基本 モダンテクニックを使って (フロッタージュ) 11. 平面技法の基本 モダンテクニックを使って (コラージュ) 12. 平面技法の基本 モダンテクニックを使って (ステンシル) 13. 立体表現① 14. 立体表現② 15. まとめ			
教科書は使用せず、 必要に応じてプリント配付			
授業の形態	演習		
／方法	教員による説明や実演などから課題の内容を理解し、学生各自が創意工夫しながら制作に取り組む。		
評価方法	授業態度 20% 課題 60% 試験 20%を総合して評価する		
その他の事項			

授業科目名	身体表現	講師名	相奈良 律
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30 時間
<b>概要</b> 身体表現活動の実践を通して、子どもの発達と表現活動について理解を深める。また、子どもの発達段階に応じた身体表現の実践を通して、動きを引き出す指導方法および的確な保育者の援助について理解を深める。			
<b>目標</b> 実践的な身体表現活動を通して、子どもの発達段階に応じた身体表現活動の題材や指導方法について学習し、保育者として指導方法および援助について理解を深める。			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、「身体表現」とは</li> <li>2. 模倣と身体表現①</li> <li>3. 模倣と身体表現②</li> <li>4. 手遊びやわらべ歌を用いた身体表現</li> <li>5. 個と集団の身体表現①（ゲームや鬼ごっこを通してコミュニケーションをはかる身体表現）</li> <li>6. 個と集団の身体表現②（即興やリズム遊びを通してコミュニケーションを深める身体表現）</li> <li>7. 身近な素材を用いた身体表現</li> <li>8. 季節や行事に合った遊びやダンス①</li> <li>9. 季節や行事に合った遊びやダンス②</li> <li>10. ダンス創作・発表</li> <li>11. パラバルーン</li> <li>12. 模擬保育に向けた指導内容の検討（指導案）</li> <li>13. 模擬保育（発表準備）</li> <li>14. 模擬保育実践・ふりかえり</li> <li>15. 模擬保育実践・ふりかえり</li> </ol>			
<b>教科書</b> 使用しない 必要に応じて適宜、資料を配布する			
<b>授業の形態</b> 演習 <b>／方法</b> 模擬保育では、テーマに即して創作した表現運動を発表する 毎時、講義ノートに感想や気づきを記録する			
<b>評価方法</b> 出席・受講態度（授業内の取り組みと発表）50%、指導案 10%、模擬保育実践 40%			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	言語表現	講師名	北村博文
実施年次 ／時期	1年次 前期	時間数	30時間
<b>概要</b> 児童文化財とは何か、表現とは何か、子どもの言葉の発達、保育内容の領域「言葉」とのかかわり、子どもの言葉を豊かに育む保育者の役割について学びます。			
<b>目標</b> 1. 児童文化財の基本的な意味の理解ができる 2. 保育内容「言葉」とのかかわりについて理解ができる 3. 保育者の言語表現技術を実践的な側面から学ぶことができる			
<b>内容</b> 1. 児童文化財とは何か 2. 児童文化と表現 3. 子ども（乳幼児）のことばの発達 4. 児童文化財とことば 5. 子どものことばを豊かに育む保育者の役割 6. 「手遊び」についての実践演習① 7. 「手遊び」についての実践演習② 8. 「手遊び」についての実践演習③ 9. 「絵本」についての実践演習① 10. 「絵本」についての実践演習② 11. 「絵本」についての実践演習③ 12. 「ペープサート」についての実践演習① 13. 「ペープサート」についての実践演習② 14. 「ペープサート」についての実践演習③ 15. まとめ			
<b>教科書</b>			
<b>授業の形態</b> 演習 <b>／方法</b> 保育者としての言語表現技術を身につけるために実践と発表を行う。			
<b>評価方法</b> 筆記試験（50%）、実践・発表と授業態度（50%）を総合して判断する。			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	音楽表現Ⅱ	講師名	森崎 他
実施年次 ／時期	2年次 通年	時間数	60 時間
<b>概要</b>			
<p>音楽表現Ⅰで習得した演奏技術を更に深めレパートリーを増やすとともに、卒業後の学習に向けての練習方法を身に付ける。</p> <p>特に初心者、ピアノ中心の練習になりがちだが、歌唱にも力を入れた練習をし、理想的なピアノ弾き歌い方法を身に付ける。</p> <p>中級者・上級者に対しては、教則本なども積極的に取り入れ就職採用試験に備える。また、さまざまなジャンルにも挑戦し音楽性を深める。</p>			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ピアノ弾き歌いの「歌唱」にも力を入れた演奏ができる</li> <li>2. 音楽表現Ⅰ合格曲の反復とともに、レパートリーを増やすことができる</li> <li>3. 様々なジャンルの曲やアレンジに挑戦できる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クラス分け・オリエンテーション</li> <li>2. ※担当教員と進路面談を行い、進路に沿ったレッスンスケジュールを立てる。</li> <li>3. 保育園・幼稚園・こども園以外に就職を希望する者に対しては、施設の行事などを意識して選曲する。</li> <li>4. また、教育実習での課題曲も練習する。</li> <li>5.</li> <li>6.</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13.</li> <li>14.</li> <li>15. 前期のまとめとして発表会を実施</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>16. ※レパートリーを増やすとともに、就職採用試験曲も用意する。</li> <li>17. 立って弾く・喋りながら弾く・鍵盤を見ないで弾く等にも挑戦し、現場に即したレッスンを実施する。</li> <li>18. 卒業発表会に向けての選曲とアレンジを工夫する。</li> <li>19.</li> <li>20.</li> <li>21.</li> <li>22.</li> <li>23.</li> <li>24.</li> <li>25.</li> <li>26.</li> <li>27.</li> <li>28.</li> <li>29.</li> <li>30. 後期のまとめとして発表会を</li> </ol>		
<b>教科書</b>			
保育のうた・こどものうた 120			
<b>授業の形態 演習</b>			
／方法 5～6名のグループに分かれての個人レッスンとグループレッスン			
<b>評価方法</b> 授業中に合格した曲数と実技試験。			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	保育実習指導 I	講師名	北村博文・木下孝一・板谷雅子 水野謙二・岸本千晶		
実施年次 ／時期	1年次 通年	時間数	60 時間		
<b>概要</b> 保育実習は「理論」と「実践」を結ぶ大切な機会であり、それぞれの実習において明確な課題を持って臨む必要があります。本授業ではなぜ実習が必要であるかを正しく理解し、准職員として実習を行う上で必要となる知識・技術の習得を目指します。また、自身の実習を振り返り、保育士の専門性についての理解を深めていきましょう。					
<b>目標</b> 1. 保育実習の意義・目的を理解できる 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にすることができる 3. 実習施設における子どもの人権および守秘義務について理解できる 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解することができる 5. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、今後の実習に向けた課題や目標を明確にすることができる					
<b>内容</b> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 1. オリエンテーション 必要書類の作成  2. 実習の意義と目的  3. 子どもの理解①（0～2歳）  4. 子どもの理解②（3歳～就学前）  5. 保育所見学① 子どもの生活  6. 保育所見学② 保育の環境  7. 特別な支援が必要な子どもの保育  8. 子どもの人権、守秘義務の理解  9. 施設実習の目的  10. 児童福祉施設の理解  11. 障害者支援施設の理解  12. 保育実践 基礎編①（制作遊び）  13. 保育実践 基礎編②（季節の遊び）  14. 保育実践 基礎編③（ことば・集団遊び）  15. 前半まとめ </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 16. 保育実践 応用編①（制作遊び）  17. 保育実践 応用編②（季節の遊び）  18. 保育実践 応用編③（ことば・集団遊び）  19. 保育実践 応用編④（リズム遊び）  20. 保育実践 振り返り  21. 実習オリエンテーションについて  22. 実習課題を考える（前レポート）  23. 実習記録の書き方（実習記録の取り扱い）  24. 実習記録の書き方（日々のねらい）  25. 実習記録の書き方（1日の生活の流れ）  26. 実習指導案の書き方（ねらいと内容）  27. 実習指導案の書き方（0～2歳児保育）  28. 実習指導案の書き方（3～5歳児保育）  29. 実習注意事項  30. 後半まとめ </td> </tr> </table>				1. オリエンテーション 必要書類の作成 2. 実習の意義と目的 3. 子どもの理解①（0～2歳） 4. 子どもの理解②（3歳～就学前） 5. 保育所見学① 子どもの生活 6. 保育所見学② 保育の環境 7. 特別な支援が必要な子どもの保育 8. 子どもの人権、守秘義務の理解 9. 施設実習の目的 10. 児童福祉施設の理解 11. 障害者支援施設の理解 12. 保育実践 基礎編①（制作遊び） 13. 保育実践 基礎編②（季節の遊び） 14. 保育実践 基礎編③（ことば・集団遊び） 15. 前半まとめ	16. 保育実践 応用編①（制作遊び） 17. 保育実践 応用編②（季節の遊び） 18. 保育実践 応用編③（ことば・集団遊び） 19. 保育実践 応用編④（リズム遊び） 20. 保育実践 振り返り 21. 実習オリエンテーションについて 22. 実習課題を考える（前レポート） 23. 実習記録の書き方（実習記録の取り扱い） 24. 実習記録の書き方（日々のねらい） 25. 実習記録の書き方（1日の生活の流れ） 26. 実習指導案の書き方（ねらいと内容） 27. 実習指導案の書き方（0～2歳児保育） 28. 実習指導案の書き方（3～5歳児保育） 29. 実習注意事項 30. 後半まとめ
1. オリエンテーション 必要書類の作成 2. 実習の意義と目的 3. 子どもの理解①（0～2歳） 4. 子どもの理解②（3歳～就学前） 5. 保育所見学① 子どもの生活 6. 保育所見学② 保育の環境 7. 特別な支援が必要な子どもの保育 8. 子どもの人権、守秘義務の理解 9. 施設実習の目的 10. 児童福祉施設の理解 11. 障害者支援施設の理解 12. 保育実践 基礎編①（制作遊び） 13. 保育実践 基礎編②（季節の遊び） 14. 保育実践 基礎編③（ことば・集団遊び） 15. 前半まとめ	16. 保育実践 応用編①（制作遊び） 17. 保育実践 応用編②（季節の遊び） 18. 保育実践 応用編③（ことば・集団遊び） 19. 保育実践 応用編④（リズム遊び） 20. 保育実践 振り返り 21. 実習オリエンテーションについて 22. 実習課題を考える（前レポート） 23. 実習記録の書き方（実習記録の取り扱い） 24. 実習記録の書き方（日々のねらい） 25. 実習記録の書き方（1日の生活の流れ） 26. 実習指導案の書き方（ねらいと内容） 27. 実習指導案の書き方（0～2歳児保育） 28. 実習指導案の書き方（3～5歳児保育） 29. 実習注意事項 30. 後半まとめ				
<b>教科書</b> 『新基本保育シリーズ 保育実習』 児童育成協会 監修（中央法規） 『保育指導案大百科事典』 開仁志 編（一藝社） 『実習手引書』 こども未来学科 編（南海福祉看護専門学校）					
<b>授業の形態</b> 演習 <b>／方法</b> 教科書および配布プリントによる講義、実習に向けた遊びの実践などを行います。					
<b>評価方法</b> 筆記試験 80%、授業への参加度 20%で総合的に評価します。					
<b>その他の事項</b> 実習に関する諸手続きは締め切りを厳守すること。					

授業科目名	保育実習指導Ⅱ	講師名	北村博文・木下孝一・板谷雅子
実施年次 ／時期	2年次 前期	時間数	30時間
<b>概要</b> 本授業は、保育実習の意義と目的を理解し、実習の計画、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、保育所・施設実習Ⅱの準備に必要な知識と実践について総合的に学ぶことを目的とする			
<b>目標</b> 1. 保育所実習、施設実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解できる 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を身に付けることができる 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解できる 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解できる			
<b>内容</b> 1. オリエンテーション 選択実習について 2. 実習の手続きについて①（実習生カード、個人調査票等） 3. 実習記録について① 実習記録の活用及び記録の取り方 4. 実習記録について② 実習記録作成のポイント 5. 指導案・支援計画書の書き方のポイント 6. 指導案・支援計画書の作成 7. 実習前レポートの作成 8. 保育所実習 ①実習の学びと課題設定 / 施設実習 ①実習の学びと課題設定 9. 保育所実習 ②模擬保育と指導案の書き方（制作遊び） / 施設実習 ②食事・排せつに関する支援 10. 保育所実習 ③模擬保育と指導案の書き方（季節の遊び） / 施設実習 ③衣類・身体の清潔に関する支援 11. 保育所実習 ④模擬保育と指導案の書き方（ことば・集団遊び） / 施設実習 ④コミュニケーションと自己表現 12. 保育所実習 ⑤模擬保育と指導案の書き方（リズム遊び） / 施設実習 ⑤社会規範とマナーに関する支援 13. 実習における注意事項① 実習に向けての基本的マナーと心構え 14. 実習における注意事項② 実習前後の手続きについて 15. まとめ			
<b>教科書</b> 『新基本保育シリーズ 保育実習』児童育成協会 監修（中央法規） 『保育指導案大百科事典』開 仁志 編（一藝社） 『実習手引書』こども未来学科 編（南海福祉看護専門学校）			
<b>授業の形態</b> 演習			
<b>／方法</b> /教科書や資料を使用し、グループワークやロールプレイングを中心に授業を進める。			
<b>評価方法</b> 筆記試験 50%、授業参加度（提出物、授業態度など）50%で総合的に評価する。			
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	保育実践演習	講師名	板谷雅子		
実施年次 ／時期	2年次 通年	時間数	60 時間		
概要	教職の意義や保育者の役割や専門性など確認し、具体的な保育内容や子ども理解について学ぶ				
目標	これまで学んだ学習知と教育実習で得られた指導力や実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏付けされた確かな実践的指導力を身に付けることを目的とし、幼稚園での実践を中心としながらも、幼稚園と小学校との連携と接続、保育所と幼稚園との連携などを意識し、教育現場や保育現場で直面する問題に対する対応力を学ぶことができる				
内容	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. 前期ガイダンス  2. 保育者の歩みと足跡①保育者とは  3. 保育者の歩みと足跡①保育者実践的力量  4. 園の安全管理  5. 保育の方法 環境  6. 子ども理解の方法と実践① 実践的理解  7. 子ども理解の方法と実践② 子ども理解と記録  8. 気になる子どもに行動の理解と対応① 保育現場の実際  9. 気になる子どもに行動の理解と対応② 必要な配慮  10. 教育課程・保育課題を考える①保育カリキュラム  11. 保育内容と保育方法の研究①  12. 保育内容と保育方法の研究②  13. 保育内容と保育方法の研究③  14. 保育の振り返り 自己覚知  15. まとめ </td> <td style="vertical-align: top;"> 16. 後期ガイダンス  17. 保育の実践の振り返りの方法と実際  18. 保育内容と保育方法 食育だより  19. 保育内容と保育方法 食育だより  20. 保育内容と実践研究 幼小連携  21. 保育内容と実践研究 指導要録  22. 保育内容と実践研究 SDGs  23. 共同的な学びと育ち① 共同的な学びの意義  24. 共同的な学びと育ち② 共同的な遊びの実際  25. 共同的な学びと育ち③ 共同的な遊びの実際  26. 共同的な学びと育ち④ 共同的な遊びの実際  27. 保育内容と実践研究  28. 保育内容と実践研究  28. 保育内容と実践研究  30. まとめ </td> </tr> </table>			1. 前期ガイダンス 2. 保育者の歩みと足跡①保育者とは 3. 保育者の歩みと足跡①保育者実践的力量 4. 園の安全管理 5. 保育の方法 環境 6. 子ども理解の方法と実践① 実践的理解 7. 子ども理解の方法と実践② 子ども理解と記録 8. 気になる子どもに行動の理解と対応① 保育現場の実際 9. 気になる子どもに行動の理解と対応② 必要な配慮 10. 教育課程・保育課題を考える①保育カリキュラム 11. 保育内容と保育方法の研究① 12. 保育内容と保育方法の研究② 13. 保育内容と保育方法の研究③ 14. 保育の振り返り 自己覚知 15. まとめ	16. 後期ガイダンス 17. 保育の実践の振り返りの方法と実際 18. 保育内容と保育方法 食育だより 19. 保育内容と保育方法 食育だより 20. 保育内容と実践研究 幼小連携 21. 保育内容と実践研究 指導要録 22. 保育内容と実践研究 SDGs 23. 共同的な学びと育ち① 共同的な学びの意義 24. 共同的な学びと育ち② 共同的な遊びの実際 25. 共同的な学びと育ち③ 共同的な遊びの実際 26. 共同的な学びと育ち④ 共同的な遊びの実際 27. 保育内容と実践研究 28. 保育内容と実践研究 28. 保育内容と実践研究 30. まとめ
1. 前期ガイダンス 2. 保育者の歩みと足跡①保育者とは 3. 保育者の歩みと足跡①保育者実践的力量 4. 園の安全管理 5. 保育の方法 環境 6. 子ども理解の方法と実践① 実践的理解 7. 子ども理解の方法と実践② 子ども理解と記録 8. 気になる子どもに行動の理解と対応① 保育現場の実際 9. 気になる子どもに行動の理解と対応② 必要な配慮 10. 教育課程・保育課題を考える①保育カリキュラム 11. 保育内容と保育方法の研究① 12. 保育内容と保育方法の研究② 13. 保育内容と保育方法の研究③ 14. 保育の振り返り 自己覚知 15. まとめ	16. 後期ガイダンス 17. 保育の実践の振り返りの方法と実際 18. 保育内容と保育方法 食育だより 19. 保育内容と保育方法 食育だより 20. 保育内容と実践研究 幼小連携 21. 保育内容と実践研究 指導要録 22. 保育内容と実践研究 SDGs 23. 共同的な学びと育ち① 共同的な学びの意義 24. 共同的な学びと育ち② 共同的な遊びの実際 25. 共同的な学びと育ち③ 共同的な遊びの実際 26. 共同的な学びと育ち④ 共同的な遊びの実際 27. 保育内容と実践研究 28. 保育内容と実践研究 28. 保育内容と実践研究 30. まとめ				
教科書	小櫃智子・矢藤誠慈郎 編「保育教職実践演習これまでの学びと保育者への歩み」わかば社 2018				
授業の形態	講義演習				
／方法	／教科書・配布プリントを中心とし、講師による解説・概説を行う				
評価方法	授業態度 30% 課題レポート 20% 試験 50%など総合して行う				
その他の事項					

<b>授業科目名</b>	卒業研究	<b>講師名</b>	北村博文
<b>実施年次 ／時期</b>	2年次 後期	<b>時間数</b>	30 時間
<p><b>概要</b> 野外における遊びを通して、季節感・自然事象(雲・風・雨・星・植物・昆虫・海や川の生物等)などについて学びを深める。そのためには自然環境について気づくことから始まり、その事象を体で感じ、興味や関心を持ってもらう。その中で研究テーマを持ち、どのように保育に活かすことができるのかを具体的に考え、研究し、発表することを目的とする。</p> <p>(学生からの希望があれば、キャンプ施設にて宿泊演習を行う場合がある。)</p>			
<p><b>目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 季節感を体感し、保育者として野外遊びを実践していくことができる。</li> <li>2. 子どもたちが自然界の事象に興味を持つための方法を体験的に学ぶことができる。</li> <li>3. 自然事象に関心を持ち、自然環境に関する保育内容や方法を体験的に学ぶことができる。</li> </ol>			
<p><b>内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 土と水の観察</li> <li>3. 植物の観察</li> <li>4. 昆虫の観察</li> <li>5. 空・雲等の観察</li> <li>6. 植物を使った遊びの実践</li> <li>7. 空・風等を使った遊びの実践</li> <li>8. 自然豊かな環境における保育の実践①</li> <li>9. 自然豊かな環境における保育の実践②</li> <li>10. 卒業研究のまとめ①</li> <li>11. 卒業研究のまとめ②</li> <li>12. 卒業研究のまとめ③</li> <li>13. 卒業研究発表の準備①</li> <li>14. 卒業研究発表の準備②</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>教科書</b>	教科書は使用せず、必要に応じてプリント配付		
<b>授業の形態 ／方法</b>	演習 /文献等の資料を活用し、遊びの実際を学ぶための実践を行う。		
<b>評価方法</b>	研究発表80%、授業態度 20%で総合的に評価します。		
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	卒業研究	講師名	森崎良尚
実施年次 ／時期	2年次 通年	時間数	30時間
<b>概要</b>			
<p>保育・教育現場に必要なパフォーマンス能力を高める。ピアノ・歌・楽器・絵本・紙芝居・朗読・身体表現・ダンス・コント・芝居・ミュージカル・司会など、自分の得意分野を追求し磨くことにより、自信を持って人前に立てる魅力ある保育者を目指す。個人やグループで課題を設定し、練習・レッスンを重ねた後に、舞台発表により成果を披露する。また、舞台発表に向けての練習・レッスン・場当たり・舞台練習・通し練習・リハーサル（ゲネプロ）・本番など、園での生活発表会などの企画・運営を学ぶ。活動をより深めるために、メンバーと相談の上、コンサート・ライブ・劇・ミュージカルの鑑賞やテレビ局見学などを予定。</p>			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 選択した課題を、基本に忠実にミスなく表現できる。</li> <li>2. その上で個性を十分に出し、自分らしく表現できる。</li> <li>3. 観る人・聞く人を意識した表現(衣装・メイクを含む)ができる。</li> <li>4. 出演者全員のチームプレイであることを認識した立ち居振る舞いができる。</li> <li>5. される拍手・する拍手の意味を考えて実施することができる。</li> <li>6. 自己評価・他己(者)評価・多面評価を整理し、次のステップに繋ぐことができる。</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. パフォーマンス設定 練習・レッスン</li> <li>3. パフォーマンス設定 練習・レッスン</li> <li>4. 個人・グループに分かれた練習 レッスン</li> <li>5. 個人・グループに分かれた練習 レッスン</li> <li>6. 個人・グループに分かれた練習 レッスン</li> <li>7. 個人・グループに分かれた練習 レッスン (目標「1」到達予定)</li> <li>8. パフォーマンス披露 多面評価 プログラム(案)決定</li> <li>9. 個人・グループに分かれた練習 レッスン</li> <li>10. 舞台場当たり 練習・レッスン</li> <li>11. 個人・グループに分かれた練習 レッスン</li> <li>12. 舞台通し練習 司会進行方法決定</li> <li>13. 舞台通し練習 最終プログラム決定</li> <li>14. 最終ダメ出し 確認練習・レッスン</li> <li>15. まとめ 成果発表</li> </ol>			
<b>教科書</b>	なし：必要に応じて資料を配布する。		
<b>授業の形態</b>	演習		
<b>／方法</b>	レッスン・個別練習・全体練習・舞台練習		
<b>評価方法</b>	研究発表(80%)及び 授業態度(20%)を総合して評価を行なう。		
<b>その他の事項</b>			

授業科目名	卒業研究	講師名	木下孝一
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30 時間
<b>概要</b>			
<p>各自の問題意識を明確にした上で、幼児教育に関する保育内容や方法の学びを深めることを目的とする。具体的な事例の検討や園見学を通して、実践力の向上に努める。また、多角的視点の育成を軸に、様々なフィールドワークを通して、「多職種からみる保育」について学びを深める。</p>			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども理解に基づいた保育の多様な展開について理解できる</li> <li>2. 文献等を通して、現代の保育にまつわる課題を理解し、子どもを取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を理解できる</li> <li>3. 保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解できる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 保育の基本と諸課題について</li> <li>3. 課題の設定①</li> <li>4. 課題の設定②</li> <li>5. 文献、資料の探索、収集、整理①</li> <li>6. 文献、資料の探索、収集、整理②</li> <li>7. 文献、資料の探索、収集、整理③</li> <li>8. ディスカッション①</li> <li>9. ディスカッション②</li> <li>10. 保育内容の研鑽</li> <li>11. 保育方法の研鑽</li> <li>12. 研究発表準備①</li> <li>13. 研究発表準備②</li> <li>14. 研究発表準備③</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>教科書</b>	なし		
<b>授業の形態</b>	演習		
<b>／方法</b>	／適時文献等の資料を活用し、グループワークやフィールドワークを行う。		
<b>評価方法</b>	研究発表（80％）、および授業態度（20％）を総合して評価を行う。		
<b>その他の事項</b>	幼稚園教諭として4年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	卒業研究	講師名	板谷雅子
実施年次 ／時期	2年次 通年	時間数	30 時間
<b>概要</b>			
<p>「造形表現をテーマに造る喜び」をこの授業で学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自身近にある素材を活かし造る活動</li> <li>・テーマの沿った表現方法を学ぶ活動</li> <li>・必要に応じて、幼児施設の見学や保育者の話を聞く活動</li> </ul>			
<b>目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーマに沿った表現の素材選びができる</li> <li>2. 創作することの喜びを感じることができる</li> </ol>			
<b>内容</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 卒業ゼミのねらい・目的・内容についての話し合い</li> <li>3. 実践</li> <li>4. 実践</li> <li>5. 実践</li> <li>6. 実践</li> <li>7. 実践</li> <li>8. 実践</li> <li>9. 実践</li> <li>10. 実践</li> <li>11. 実践</li> <li>12. 実践</li> <li>13. 反省及び研究の考察</li> <li>14. 反省及び研究の考察</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
<b>教科書</b>	教科書は使用せず、必要に応じてプリント配付		
<b>授業の形態</b>	<b>演習</b>		
<b>／方法</b>	学生各自が自らの課題に向かって研究に取り組む		
<b>評価方法</b>	研究発表 80%、授業態度 20%で総合的に評価します		
<b>その他の事項</b>	幼稚園教諭として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う		

授業科目名	卒業研究	講師名	水野 謙二
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30時間
概要	<p>これまでの学生生活で身に付けてきた保育・福祉の知識や技能をもとに、各自テーマを探して研究し、発表することを目的としています。これからの社会を生き抜くため、できる限り広い視野を持ち、様々な意見に耳を傾けることで大きく成長していきましょう。</p> <p>こちらからテーマを設定する場合がありますが、できる限りゼミ生の考えを尊重していきたいと考えています。</p>		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでに得た知識をもとに自分が追究したいテーマを自ら選び、まとめることができる。</li> <li>2. 自分の研究について、分かりやすく発表することができる。</li> <li>3. 自分または他の学生の研究について、積極的なディスカッションを行うことができる。</li> </ol>		
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. テーマの検討（他の学生とのディスカッション含む）</li> <li>3. レジューメ作成、発表</li> <li>4. テーマ毎の事例研究および実践①</li> <li>5. テーマ毎の事例研究および実践②</li> <li>6. テーマ毎の事例研究および実践③</li> <li>7. テーマ毎の事例研究および実践④</li> <li>8. 中間報告（グループディスカッション）</li> <li>9. テーマ毎の事例研究および実践⑤</li> <li>10. テーマ毎の事例研究および実践⑥</li> <li>11. テーマ毎の事例研究および実践⑦</li> <li>12. 発表準備（発表資料の作成）</li> <li>13. 発表準備（原稿の作成）</li> <li>14. 発表準備（リハーサル）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
教科書	特になし		
授業の形態	演習		
／方法	／情報収集、制作、ディスカッションなど必要に応じた演習を行う。		
評価方法	研究発表（80%）および授業態度（20%）を総合して評価を行う。		
その他の事項			

授業科目名	卒業研究	講師名	岸本千晶
実施年次 ／時期	2年次 後期	時間数	30時間
概要	<p>これまでの学生生活で身に付けてきた保育・福祉の知識や技能をもとに、各自テーマを探して研究し、発表することを目的としています。これからの社会を生き抜くため、できる限り広い視野を持ち、様々な意見に耳を傾けることで大きく成長していきましょう。</p> <p>こちらからテーマを設定する場合がありますが、できる限りゼミ生の考えを尊重していきたいと考えています。</p>		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. これまでに得た知識をもとに自分が追究したいテーマを自ら選び、まとめることができる。</li> <li>2. 自分の研究について、分かりやすく発表することができる。</li> <li>3. 自分または他の学生の研究について、積極的なディスカッションを行うことができる。</li> </ol>		
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. テーマの検討（他の学生とのディスカッション含む）</li> <li>3. レジューメ作成、発表</li> <li>4. テーマ毎の事例研究および実践①</li> <li>5. テーマ毎の事例研究および実践②</li> <li>6. テーマ毎の事例研究および実践③</li> <li>7. テーマ毎の事例研究および実践④</li> <li>8. 中間報告（グループディスカッション）</li> <li>9. テーマ毎の事例研究および実践⑤</li> <li>10. テーマ毎の事例研究および実践⑥</li> <li>11. テーマ毎の事例研究および実践⑦</li> <li>12. 発表準備（発表資料の作成）</li> <li>13. 発表準備（原稿の作成）</li> <li>14. 発表準備（リハーサル）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
教科書	特になし		
授業の形態	演習		
／方法	／情報収集、制作、ディスカッションなど必要に応じた演習を行う。		
評価方法	研究発表（80%）および授業態度（20%）を総合して評価を行う。		
その他の事項	保育士として5年以上の実務経験のある教員が講義を行う。		

授業科目名	フィールドワーク	講師名	木下孝一・北村博文・森崎良尚・板谷雅子・水野謙二・岸本千晶
実施年次 ／時期	1年次 2年次	時間数	48時間

### 概要

各自の問題意識を明確にした上で、現場体験を通し、子ども理解、利用者理解、施設理解、等の充実を図り、保育者としての必要な資質について学びを深めることを目的とする。また、多角的視点の育成を軸に、様々な場所での現場体験を通して、現場に直結した実践力の向上を図る。

### 目標

1. 子ども（利用者）理解に基づいた保育の実践力を身に付けることができる
2. 現場体験を通して、子ども（利用者）を取り巻く環境について理解できる
3. 保育士の専門性と職業倫理について理解できる

### 内容

- ・ 保育所等を含む児童福祉施設の見学、子どもや利用者との関わり体験、行事等の参加
- ・ 2年間で48時間を設定する
- ・ 2年間で4期に分ける（1期：1年前期、2期：1年後期、3期：2年前期、4期：2年後期）
- ・ 1期ではオリエンテーション、2期では保育現場を中心とした内容、3期では施設現場を中心とした内容、4期では全体の振り返り等を実施予定

※全体スケジュール（48時間、一人5ヶ所以上の現場体験を予定）

時期		時間	対象施設	内容
1期	1年前期	4時間	学校内	事前学習
2期	1年後期	16時間 ※8時間	保育所、こども園（2施設） ※選択施設（1施設以上）	現場体験
3期	2年前期	16時間 ※8時間	保育を除く福祉施設（2施設） （就B、放課後等デイ、児童養護施設、等） ※選択施設（1施設以上）	現場体験
4期	2年後期	4時間	学校内	事後学習

※選択施設は1施設以上、合計8時間（2期、3期の間で実施）

教科書 なし

授業の形態 演習

／方法 保育実習に向けた事前学習、現場体験、事後振り返り

評価方法 事前学習と、現場体験後の振り返りを総合的に評価する

その他の事項